

敬愛するみなさまへ <yuki@spa.nifty.com>

Subject: こどもたちに慕われていた27歳の英語の先生が精神病院で縛られて理不尽な死、各国のメディアが報道☆えにし☆

2017.7.15

福祉と医療・現場と政策の“志の縁結び係&小間使い”

昨夕、間に合わなかった日本の精神病院の現実をお伝えしますね。

◆◇こどもたちに慕われていた27歳の英語の先生

精神病院で縛られて、理不尽な死◆

ビクトリア大で日本語と心理学を学び、日本の小中学生に、この2年、英語を教えていたケリー・サベジさんの死が、母国のニュージーランドだけでなく、英国、オーストラリア、スウェーデンなどで、大きく報じられています。

躁病の発作で裸になって騒ぐケリーさんを心配した兄のパットさんに、横浜市の職員が、神奈川県
の精神病院、大和病院を紹介しました。

診療室では落ちつきを取り戻していたケリーさん。

ところが、医師は、ベッドに胴体と手足を縛りつける「身体拘束」するように指示。おむつをつけられる日々が続きました。そして、10日後の4月30日の夜9時すぎ、心肺停止状態になっているところを看護師が発見しました。

ケリーさんは、市立大和病院に搬送され、蘇生処置が施されましたが、5月17日に死を宣告されました。

市立病院の医師は「10日間、抑制（縛ること）されたことを考えると、深部静脈血栓が発生し、肺の血管がつまり、心肺停止になった可能性があります」と遺族に説明しました。

「なぜ縛られなければならなかったのか」「なぜ死ななければならなかったのか」、それを知りたくて、遺族はこの2カ月間、病院にカルテのコピーを求めつつありますが、病院側は拒んでいます。

ウェリントン大学の地震学の教授である母のマーサさんは、「中世の映画の出来事のようにショックを受けています」「この拘束は、現代社会のできごとには思えず、ニュージーランドでは絶対に起こりえないこと」「このようなことが2度とおきないように訴えたい」と述べています。

ニュージーランドの外務省は、東京のニュージーランド大使館を通じて、遺族がカルテにアクセスできるように支援することを約束しました。

日本のマスメディアは、なぜ、沈黙しているのでしょうか？

福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット
志の縁結び係&小間使い
大熊由紀子 yuki@spa.nifty.com
<http://www.yuki-enishi.com/>

「えにしメール」誕生のいきさつは、以下を。
<http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-2001.html#enishi-2001-3>
<http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-2001.html>

P. S.

「えにしメール」は、
私が直接存じあげ、「志高い方」と直感し、
志をつなぎたいなあと思い、信頼した方にだけお送りしています。